

# 説教 悔い改めへの招き

(イザヤ書 8 章 23b-9 章 3 節、マタイによる福音書 4 章 12-17 節)

2021 年 1 月 24 日

仙川教会主日礼拝説教

大串肇牧師

主イエスが悪魔の誘惑を受けてからどれほどの日数が経過したか分かりません。今や洗礼者ヨハネが「捕らえられた」と聞き、イエスは「ガリラヤに退かれ」ました(4 章 12 節)。この「捕らえられる」という聖書の言葉は「引き渡される」とも訳される言葉です。イエスが処刑されるために「引き渡された」ことを思い起こします。このイエスの受難と十字架の死を表す重要な言葉なのです。洗礼者ヨハネの逮捕はまさに主イエスの受難と十字架の死の道への最初の歩みです。イエスはナザレを離れ、ガリラヤ湖畔の町カファルナウムに移り住まわれました。それはイエスの願いや希望ではなく、すべて神のご計画でした。

それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。「ゼブルンの地とナフタリの地、／湖沿いの道、ヨルダン川のあなたの地、／異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、／死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」(15-16 節)

これはイザヤ書 8 章 23 節-9 章 2 節からの引用です。メシア預言とも呼ばれています。紀元前 8 世紀にアッシリアという大国によってこの北イスラエル王国の領土は奪われてしまいました。しかしその出来事を神の審判としてとらえ、打ちひしがれた人々に希望を語ったのがこの預言でした。暗闇の世界にもかかわらず、平和の君が登場し終わりのなき平和をもたらす。そういう希望を投げかけています。

しかしその希望の光は異邦人の地ガリラヤに向けられているのです。「異邦人」として差別され、希望を失い、「暗闇に住む」人々、「死の陰の地に住む者」にこそ大きな光を見るのです。ガリラヤでのイエスの福音宣教は重要な意味があったのです。これは聖書に記された預言の実現であり、イエスを通して神のご計画がまさに実行されているのです。

ナザレはゼブルン、カファルナウムもナフタリの地に属しています。イエスの十字架の出来事後、エルサレムがローマ軍によって破壊された紀元後

70年以降、ユダヤ教とキリスト教がはっきりと分離します。その時、ガリラヤは社会的にも経済的にもイスラエルの中核となるのです。「異邦人の地ガリラヤ」と呼ばれて差別されてきたガリラヤは、皮肉にも初代キリスト教会の伝道の出発点となり（28章）、ユダヤ人を超えて異邦人にも福音伝道するというマタイ福音書の「ミッション」Mission(使命)となったのです。まさにこれぞ奇しき神の御業です。その第一声が今やイエスの口を通してあげられるのです。17節です。

そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

「悔い改め」にはもともと方向を180度転換することを意味します。つまりはわたしたちの生き方の方向を全く新たに变えることです。今までは自分自身のことばかり考えて生きていたかもしれません。そういう生き方から神を仰ぎ、神と共に生きる、隣人と共に生きる。そういう生き方に変わることを意味します。しかしどうしたらわたしたちはそのような方向転換ができるのでしょうか。それは自分の能力や努力でなせる業ではありません。むしろ失敗して挫折したり、焦って落ち込んでしまったりしてしまうかもしれません。そういうとき、今日の聖書の箇所を思い起こして頂きたいのです。

わたしたちが悔い改める理由は、不十分だからでもない、もう時間がないからでも、あなたが不信仰だからでもありません。わたしたちを断罪するためではなく、神はわたしたちを招かれているのです。だからこそ、イエスを遣わして下さいなのです。「悔い改めなさい」という声は要求や救済のための条件ではなく、神の愛の呼び掛けであり、赦しへの招きなのです。

イエスが自分の故郷を捨て、異邦人の世界に救いをもたらすように、イエスの方から異邦人と呼ばれるような人々に近づき、恵み、救いの機会を賜るのです。「**天の国が近づいた**」というのは、わたしたちに対する実に慰めに満ちた、恵み深い、ゆるぎない神の愛の宣言です。「異邦人のように」扱われたり、差別されたり苦しんでいる人、絶望し、「**暗闇に住む民、死の陰の地に住**」んでいる人にこそ、「**光が射し込む**」のです。

皆さん、今朝主イエス・キリストはわたしたちの方からではなく、主イエス・キリストの方からわたしたちに近づき、救いと恵みに招いて下さっています。この恵みの出来事に心を開いてください。「**暗闇**」と「**死の陰**」の中にこそ、愛と赦しの光が差し込んだのです。この愛と安らぎの陽だまりの方にわたしたちの心の扉を今あけましょう。お祈り致します。